

靈樞・營衛在會第十八

〔I〕

黃帝岐伯問曰。人^焉氣^焉後^焉。陰陽會^焉也。
 何^レ氣^ノ營^ト爲^ル。何^レ氣^ノ衛^ト爲^ル。營^ハ安^ク後^リ。
 衛^ハ安^ク會^ハ也。老^シ壯^ム氣^ハ何^レ也。陰陽^ハ何^レ也。
 營^ハ何^レ也。岐伯答^ハ曰。五藏^ハ六腑^ハ皆^以之^レ。
 氣^ハ血^ハ脈^ハ絡^ハ經^ハ也。營^ハ中^ノ也。衛^ハ外^ノ也。營^ハ中^ノ也。衛^ハ外^ノ也。
 營^ハ中^ノ也。衛^ハ外^ノ也。營^ハ中^ノ也。衛^ハ外^ノ也。營^ハ中^ノ也。衛^ハ外^ノ也。

靈樞十八

復^ニ大^ニ會^ス。陰陽^ハ其^レ環^ノ之^レ。其^レ端^ハ在^ル也。衛氣^ハ陰^ニに

二十五度^ヲ行^ク。陽^ハ二十五度^ヲ行^ク。分^ク之^レ晝^ノ夜^ト爲^ス。故^ニ氣

陽^ハ主^レ起^ス。陰^ハ主^レ止^ス。故^ニ以^テ日^中ノ陽^隆ク。夜^中ノ陰^隆ク。

陽^ト爲^ス。夜^中ノ陰^隆ク。故^ニ以^テ太^陰。

日^ハ主^レ外^ノ也。夜^ハ主^レ内^ノ也。故^ニ以^テ二十五度^ト分^ク。

之^レ晝^ノ夜^ト爲^ス。夜^中ノ陰^隆ク。故^ニ以^テ太^陰。

陰^者主^レ夜^ノ也。陽^者主^レ日^中ノ也。故^ニ以^テ太^陰。

之^レ陽^隆ク。日^中ノ陽^隆ク。故^ニ以^テ太^陰。

靈樞十八

夜にさす。夜半に大雷し。萬民皆臥す。命けり。
合陰と曰ふ。平地に陰蓋まき。陽氣を夜に。是れ如く已むと
云く。天と變に紀を同りす。

四

黃帝曰く老人の夜、瞑せざるは何の氣か。然るに彼れ、少壯の人
も、瞑せざるは何の氣か。然るに彼れ、岐伯答へて曰く、壯者の氣血
盛なりと、其の氣血は滑なり。氣道通い。管衛の行りも
其の常と久はす。故に善よく精かかにして、夜く瞑し。老者の氣血
は衰へ、其の氣血枯れ。氣道は滯り。五藏の氣相ひ搏り、其の

靈十八一三

管衛を衰へ、少なりと、衛氣内にこも行ふ。故に善よく精かかにして、
夜にく瞑し。

四

黃帝曰く、願はくは、管衛の行る所、何山の道より來るとか
と問ひん。岐伯答へて曰く、管は中焦より出で、衛は下焦より
出で。

黃帝曰く、願はくは、三焦の出る所を問ひん。岐伯答へて曰く、
上焦は心の上より出で、胸に心、以て上を、胸を貫き、膈中に
布す。脈を走り、下陰の合を循りて行り、是れ是れと陽明に走り、

靈十八一四

上る古に言ひ、是の陽明と下如常に營と俱に陽に行き、
二十五度陰に行き、二十五度にて、一回了ま也。故に五十度にて、

緩み手の入陰に大命ありきなり。

IV

黄帝曰く人穀

を飲食して下るもの月う也。

胃はるの氣を以て定まるとに

汗則ち出づ。或は汗に面に出ず、或は汗に背に出ず、或は汗に身より出

ず。其は衛氣の道と循りて出づは江河也。岐伯曰く此

外、風に傷れ、内は股理開き、毛蒸る、理泄れ、衛氣走まは

因りて、道と循りて得ず。此の氣、厲は瘡、潰は潰、開は出づ

靈十八、五

見は如、故に道に従ふを得ず。故に命を漏泄と曰ひ。

V

黄帝曰く解はくは中長。出づる所を問ふ。岐伯答へ曰く、中長も

亦、中長に並ひ、上長の氣に出づ。此れ氣を交する所は、糟粕と

此し、津液を交し、其の精微を以て、上る脾脈に注ぎ、乃ち

化して血となす。以て身を以て奉る。此れも貴きは莫し

故に獨り經隧に行きを得。命は之を營氣と曰ふ。

VI

黄帝曰く、夫れ血の氣と希はれど、類を同じうするは、何

の消えや。岐伯答へて曰く、營衛は精氣なり、血は神氣

大、中、小

靈十八、六

四

有り。故に血の属とを異にすは是も同類有り。
故に犀血(瀉血) 麝香は計を以て女く犀計を... 犀血(瀉血)より一也し。

四

故に人に兩致(犀血・犀計)有りて、兩(犀血と犀計)なくは匠の
蓋帝曰く、脈は下馬の出る所を聞かぬ。故に脊へは向く。

下馬は迴腸に別れる膀胱に注りて滲入す也。故に小教は常に

汗丹、胃中、糟粕を成して俱に大腸に下りて下馬と死して

滲入と俱に下に瀦し、泌と計を別る。下馬を縮りて膀胱

肢に滲入す有り。

四

蓋帝曰く、人酒を飲めば、酒も亦胃に入らぬ。未熟なるは

正鹽十八一七

小便獨り及に下り(は何)や。故に脊へは向く。酒は熱教の

液有り。その氣、悍く、以て瀦し。故に教に浸れ入らぬ也。

教に先けて液出す也。

蓋帝曰く、蓋と。余聞く、上馬は霧や如く、中馬は海や如く、

下馬は瀦や如くは、瀦ひ有り。



正鹽十八一八